

教育指導課便り

～つながり合い、共に学びをはぐくむために～

函館市教育委員会
学校教育部教育指導課
平成24年5月25日発行
VOL. 3

第1回特別支援教育支援員研修会報告

今年度も50名の特別支援教育支援員が、先生方や子どもたちの支えとなっています。

支援員の方のさらなる活躍のために、5月11日（金）に昭和小学校と、亀田中学校を会場に第1回研修会を実施しました。会場校の特別支援教育コーディネーターから、自校の特別支援教育の取組についての説明の後、小学校は第2学年の算数科、中学校は特別支援学級の生活単元学習の授業を参観しました。各授業では、支援員が配慮の必要な児童生徒に寄り添いながら、適切なタイミングで支援を行っており、学級担任との連携の在り方や、児童生徒へのかかわり方について理解を深めました。

午後は日頃の支援の内容の交流、函館市の義務教育と特別支援教育にかかわる基本的な考え方や、支援員の役割についての説明に続き、「注意されると学習に参加しない子への対応」を考える演習を行い、多様な支援の方法について理解を深めました。

今後とも、支援員が配置されている学校におきましては、教職員との連携のもと、児童生徒一人一人のニーズに応じたよりよい支援を進めていただきますようお願いいたします。



第1回学力向上プロジェクト推進委員会報告

5月22日（火）に第1回学力向上プロジェクト推進委員会を開催しました。

会議には、平成24年度の本プロジェクト推進委員15名、研究モデル校研究担当者5名が出席しました。

事務局から、平成23年度標準学力検査（CRT）、全国学力・学習状況調査、学習意識調査の分析結果を説明した後、本年度の推進委員会の活動について協議を行いました。

本委員会は今回を含めて4回の全体会、複数回の部会により、各学校における学力向上の取組を支援する情報等を検討し、提供していきたいと考えております。

今後とも、会議概要について、本便りに掲載してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

※ 平成23年度全国学力・学習状況調査結果概要については、教育指導課HPに掲載しております。

〈平成24年度推進委員〉	
委員長	鱒川中 校長 林 弘明 氏
副委員長	港小 教頭 石川 嘉明 氏
委員（国語部会）	新沼 誠子氏（青柳小教諭） 丸山 敏儀氏（八幡小教諭） 金子 賢氏（的場中教諭） 丹 通史氏（函館高教諭）
委員（算数・数学部会）	竹内 昭夫氏（中央小教諭） 小林 卓也氏（本通小教諭） 中山 央氏（戸倉中教諭） 星野 朋己氏（函館高教諭）
委員（外国語部会）	宮森 仁之氏（柏野小教諭） 山田 忍氏（北中教諭） 林 修司氏（的場中教諭） 齋 圭治朗氏（函館高教諭）
助言者	松田 賢治氏（教育大函館准教授）

コラム：武道（①）

武道は、中学校第1学年及び第2学年では、これまで「武道またはダンス」として選択領域でしたが、新学習指導要領において、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて指導内容の体系化を図るといった考え方により、「武道」と「ダンス」を含めた全ての領域が必修となりました。

各学校において、安全で効果的な指導が展開されるよう、2回に分けて、情報提供をします。

1 武道のわらいと内容を確認しましょう

- 武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。【知識、理解、判断】
- 武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど、健康・安全に気を配ることができるようにする。【態度】
- 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。【技能】
- 相撲では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、押ししたり寄ったりするなどの攻防を展開すること。【技能】

2 安全管理・安全指導の徹底を図りましょう

- 安全に活動できる環境の整備
 - ・施設・設備の充実
 - ・安全点検の励行
- 安全を確保するための指導体制・指導方法の工夫
 - ・指導体制の工夫（チーム・ティーチングや外部指導者の導入）
 - ・指導方法の工夫（①体格や技能の習熟の程度に配慮した指導方法の工夫）
（②段階的な指導方法の工夫（例）易→難、低→高、弱→強など）